

# 中国太郎の 発掘日記 第20号

島根県埋蔵文化財調査センター

TEL：0852-36-8608

江の川発掘調査事務所

TEL：050-5527-4088

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせです。



中国太郎くん



令和4年は  
まいぶんセンター開設30周年！

島根県埋蔵文化財調査センターでは、江の川河川改修事業にともない、平成29年度から発掘調査を行っています。本年度は5月から松川町内で本田窯跡の発掘調査を行っています。

本田窯跡は、明治から昭和30年代にかけて、主に甕などの容器や瓦も生産した石見焼の窯跡です。

## 本田窯跡の発掘調査



### 1区の建物跡

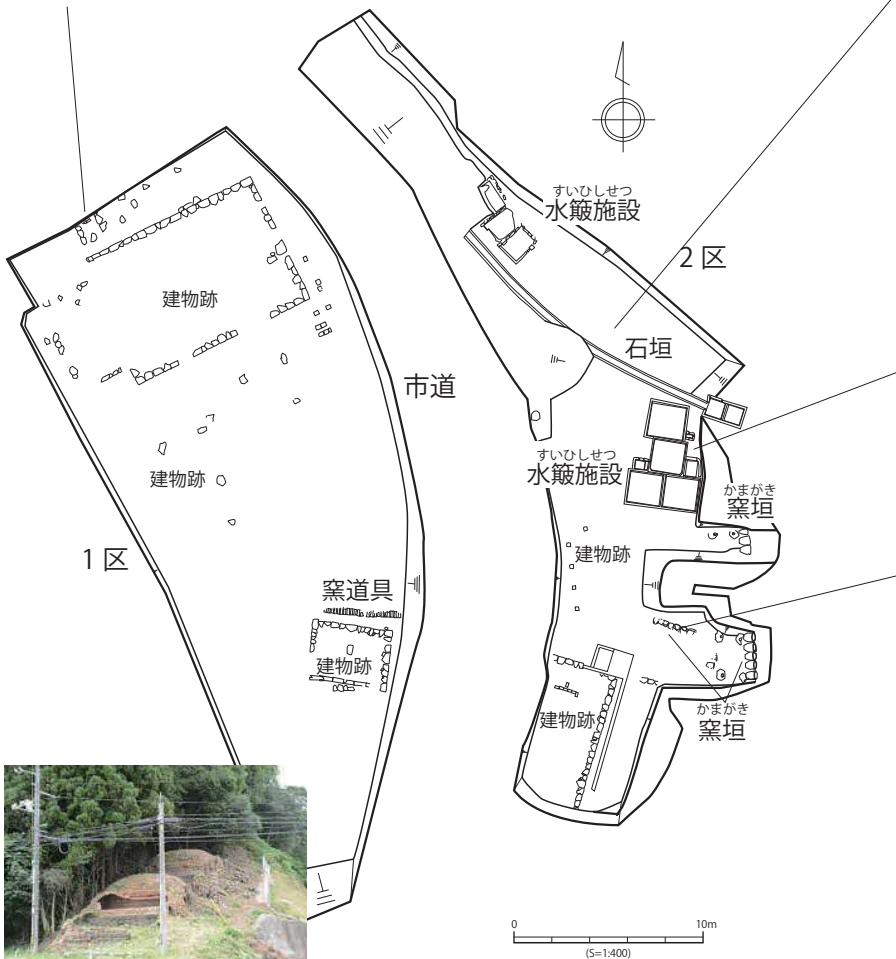
この調査区はすでに埋め戻しています。建物の基礎やたくさんの窯道具などが出土しました。

最上層にはコンクリート製の基礎が、その下層からは石を使った基礎が検出されました。

石見焼の窯に伴う作業場などがあつたと思われます。



北側の石垣 川に面して石垣が発見されました。この遺跡で石見焼製作を始める際に最初に作られた施設の様です。



水簸施設 粘土を水にさらして焼き物に使う陶土を精製する施設。



窯垣と柱穴



連房式登り窯

国道261号

## 発見された遺構

本田窯跡の発掘調査では、連房式登り窯本体の一部をはじめ、作業場と考えられる建物跡や石垣、水簸施設をはじめとする焼き物に関わる施設を発見しました。

中でも遺跡中ほどに残るモルタル製の構造物が目を引きま<sup>す</sup>。これは水簸<sup>すいひ</sup>を行う施設で、粘土を水にさらして上澄みを流し集めて陶土を得るものです。本田窯跡では、こうした水簸施設<sup>すいひしせつ</sup>が2組以上発見され、ブロック積みからモルタル製に変わっていった様子も確認されました。また、石垣の代わりに石見焼の大甕<sup>かまがき</sup>に土を詰めて並べた窯垣が作られています。石見焼の窯場らしい、当時の工夫がうかがわれる様々な遺構が発見されました。



窯跡 工事範囲にかかる1房分の調査を行いました。



水簸施設の内部 大量の粘土が残されていました。



窯垣 大甕の内部には土を詰め、口を石で塞いでいます。



1区の石が入った穴。ロク口の軸の跡でしょうか？

## 1区下層から桜谷鉦跡を発見

1区の調査では、石見焼窯跡に伴う建物跡などを検出しましたが、その下層からは焼けた面やたくさんの炭が出土しました。この遺構は、江戸時代に鉄を生産した桜谷鉦跡<sup>たたら</sup>だったと考えられます。

このたたら跡の遺構については、来年度に改めて調査を行うため、現在は埋め戻しています。



上から見た桜谷鉦跡の検出状況。

### ※おねがい※

調査中の遺跡は深く掘り下げた部分があり、大変危険です。事故防止のため調査区内に立ち入らないようにお願いします。

見学を希望される方は上記発掘調査事務所までご連絡ください。